

2009年 会頭年頭挨拶

未来志向の経営 ～「守り」よりも「構え」で立ち向かう～

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

世界的金融危機が実体経済に大きな影響を及ぼしており、いまだかつてない不透明感の中での新年となりました。京都商工会議所としては、地域の経済基盤である中小・小規模企業の資金繰りと雇用を最優先課題と位置づけ、全ての経営者に対して本所中小企業経営相談センターを中心に、スピード感を持って全面的にサポートしてまいります。

現在の世界的な景気減速の背景には、百年に一度の社会や経済の構造変化があると認識しています。いわゆる工業社会から持続可能社会への社会変化であり、それを支える経済も大量生産・大量消費という量的対応経済から、再利用や循環型という環境対応経済へと変化していくでしょう。環境、資源・エネルギー、安心、安全、健康、食糧など、人間が生きていく上での本質的課題を解決していくことが、持続可能社会に貢献するビジネスチャンスと捉えています。

また、今回の金融危機で外需依存型の日本経済の弱点が露呈しましたが、世界的な景気減速のもとでは内需主導型の産業構造への取り組みが必要です。これまでのような中央による全国一律的な取り組みではなく、地域毎の強みや特性を活かした地域主導型の取り組みが、都市と地方の格差を是正するための国内内需を創造すると、考えており、創造性と機動力を発揮する中小企業のビジネスチャンスは大きいと思います。その意味で、地域行政に対しては中長期的

な成長に重点を置いた公共投資の前倒しや入札ルールの変更などに主体的な役割を求めていきたいと考えています。

さらに、内需といっても国内に限定するものではなく、中国はじめ日本に近いアジア各都市では、生活水準を向上させる内需が盛り上がりつつあります。このような国内とアジアの二つの内需を「アジア連結内需」として捉えることが重要です。そして、アジアから見た京都・関西の魅力を活かして、都市や地域、国を越えてアジアの持続可能社会づくりに貢献していくことがビジネスチャンスを拡大し、中小企業の中長期的な成長につながると考えています。そのため、今年の本所が仲介役となって、地元中小企業とアジア市場の「双方向の見える化」に取り組んでみたいと思います。

未曾有の危機にあって、資金繰りの確保やコストダウン、損益分岐点の引き下げなど足元を固めながら、同時に、将来を考えることが経営者の役割です。私たち経営者は、百年に一度の社会と経済の変化に対して「守る」だけでなく、中長期的な成長への「構え」として、未来志向の経営を行う気概と勇気が求められています。

経営に「厳しさ」と「変化」への対応が求められる中、本所は「知恵産業のまち・京都の推進」()を基本方針とするニュー京商ビジョンに基づき、さまざまな事業を推進しています。

昨年は「普及・啓発」のステージと位置づけ、知恵を活かしたビジネス事例の発掘などに取り組んでまいりました。今年は「育成」のステージへと進化させますが、成功の鍵は顧客と現場の双方向の見える化に取り組むことにあると考えています。本所としては知恵ビジネスに取り組むメリットをわかりやすく示すことに努めながら、顧客創造に挑戦する勇気ある経営者を支援してまいります。

一方、本所では、一人ひとりの創造性を引き出すために、会員が主役となるボトムアップ型の会議所運営に取り組んでいます。「知恵産業のまち・京都の推進」に向け、より多くの力を結集するため、

皆さまのご入会をお待ち申し上げております。

本年が、皆さまにとって、厳しい中でも明日に向かって実り多い一年でありますよう心から祈念いたしますとともに、本所への一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

以上

平成 21 年 1 月 1 日

京都商工会議所

会頭 立石 義雄

「知恵産業」とは、昔からの人々の「生き方の知恵」や産学公連携などの「知恵インフラ」といった京都の特性と、それぞれの強みを活かし、付加価値の高い商品・サービスを開発し、新たな顧客創造に取り組むことです。